

令和5年度 やまなしエコ通勤・エコ通学 トライアルウィーク 実施状況



1. 参加申し込み状況

申し込みと現在の通勤状況

申し込み	従業員数	マイカー通勤
30	10,854	7,717

- ・エコ通勤トライアルウィークへの参加申し込みのあった事業所数は30事業所。
- ・参加事業所に勤務する10,854人のうち7,717人(71.1%)が現在マイカーで通勤。

ステップ1 エコ通勤PR取り組み状況

メール等	掲示等	会議等	個別	その他
15	14	9	8	3

- ・PRの方法は、各事業所で、効果的な方法を選択してもらい、内訳は
 - 「メール・イントラネットなどで案内」 15事業所
 - 「掲示物・職場内回覧などで周知」 14事業所
 - 「会議・朝礼などで呼びかけ」 9事業所
 - 「マイカー通勤者に個別に働きかけ」 8事業所
 - その他（担当職員が各課等を訪問し呼びかけ） 5事業所

ステップ2 エコ通勤転換予定者数

徒歩	自転車	公共交通	その他	計
103	95	124	93	415

- ・期間中は参加事業所のマイカー通勤者7,717人のうち、415人(5.4%)がエコ通勤にチャレンジする予定。

- ・エコ通勤の種別ごとの転換者数は

「徒歩通勤にチャレンジ」	103人(29.9%)
「自転車通勤にチャレンジ」	95人(22.9%)
「公共交通通勤にチャレンジ」	124人(22.0%)
「その他のエコ通勤にチャレンジ」	93人(22.4%)

- ・「その他のエコ通勤」の93人は「マイカーによる乗り合わせ通勤」を実施予定。

ステップ3 ワンコインエコチケット配布数

チケット計	実人数
734	175

- ・配布対象者別内訳

	チケット	実人数
公共交通にチャレンジ	544	80
自転車通勤にチャレンジ	190	95
計	734	175

・昨年度に引き続き、自転車通勤にチャレンジする方に雨天対応用として1日分のエコチケットを配布。

期間中、1乗車100円で路線バスを利用可能な「ワンコインエコチケット」の配付枚数は734枚。

うち、バス通勤にチャレンジする方の分が544枚、自転車通勤にチャレンジする方の雨天のバス対応分が190枚

・エコチケットを配付する実人数は175人で、うちバス通勤にチャレンジする者が80名、自転車通勤にチャレンジする方が95名

2. 期間中の取り組み状況

バス事業者からのエコチケット利用状況

2月26日	15
2月27日	29
2月28日	26
2月29日	26
3月1日	30
3月2日	3
3月3日	2
合計	131

・期間中のワンコインエコチケットの利用数は131枚で、配付数734枚の17.8%。

・エコチケット利用率が低かったが、自転車通勤にチャレンジする方に一日配布したチケットが利用されなかったことが大きな要因と考えられる。

参加事業所からの実績報告

	徒歩	自転車	公共交通	その他	計
2月26日	59	51	67	34	211
2月27日	63	66	77	66	272
2月28日	57	67	82	44	250
2月29日	58	66	79	59	262
3月1日	61	52	86	55	254
3月2日	10	9	21	14	54
3月3日	11	5	20	15	51
合計	319	316	432	287	1,354

・期間中にエコ通勤に取り組んだと報告のあったのは延べ1,354回。

・参加申し込みのあった415人が、期間中に平均3.1回のエコ通勤を実施した。

参加者からの代表的な意見

○肯定的な感想

- ・自分自身の健康にもよく、CO2削減にもつながることなので、参加できてよかった。
- ・バス通勤を試行的に実施できるので、通勤手段の参考になりました。
- ・現在の状況でバス本数維持は大変だと思うが、今後も事業の実施をお願いしたい。
- ・通勤時、駅までの道沿いで花が咲いていて驚いた。
- ・健康増進につながることから、今後の通勤手段を見直すきっかけになった。
- ・乗車中は自分の時間を有意義に過ごすことができた。
- ・冬の時期で寒さを感じたものの、通勤時体を動かすことで、気分転換ができた。
- ・移動中の時間が有意義に過ごせてよかった。
- ・運動不足解消のいい機会になった。

○否定的な感想

- ・朝夕通勤時間帯においてバスが遅れている場合、待っている間不安になった。
- ・歩く距離が増えて健康的だと思ったが、バスと電車の時刻がうまく合わず、通勤時間が増えてしまう点について苦労した。
- ・勤務開始時間に合うバスがない。
- ・乗り換えが発生してしまい、時間が合わない。

○参加理由

- ・ 徒歩圏内、路線バスが身近にあったから。
- ・ メンタル面でも、リフレッシュになると考えた。
- ・ 徒歩圏内のため、日頃から極力徒歩通勤を心掛けてきたため参加した。

○不参加理由

- ・ 勤務時間が公共交通の運行時間内にならないため。
- ・ 自宅近くにバス停が無かったため。
- ・ 業務多忙により、バス運行時の帰宅ができなかった。
- ・ バスが定時運行されず、始業時間に間に合わないため、不参加。
- ・ 子どもの送迎等も行うため、公共交通ではライフスタイルに合わない。

○転換への課題

- ・ 市外の自宅付近から勤務時間に間に合うバスの便が無く参加できなかった。
- ・ 公共交通機関の活用しやすさと自転車通行の安全性の確保。
- ・ 職員が自転車、徒歩通勤又は公共交通機関の便が悪い場所からの通勤であるため。
- ・ 自宅から職場までの公共交通がなく距離も遠いため、自動車通勤するしかない。
- ・ 自宅近くにバス路線が走っていない。
- ・ 市内では公共交通網が不十分なので時間がかかりかかってしまう。
- ・ 夕方はバスの本数も少なく、夜道を徒歩で帰ることは周囲の反対もあった。
- ・ 中心街は公共交通が利用しやすいが、出先機関はバスの本数も少なく利用しづらい。
- ・ 乗り換えが発生してしまい、時間が合わない。
- ・ 市外遠方に住んでいるため、公共交通のみの通勤が困難である。

3. 参加事業所（※公表不可の事業所は除く） 順不同

株式会社ふじでん
日東建設株式会社
山梨県歯科衛生専門学校
山梨県立青少年センター
やまなし産業支援機構
山梨信用金庫
山梨県立就業支援センター
甲斐市立玉幡小学校
山梨運輸支局
甲府市役所
富士吉田市役所
都留市役所
大月市役所
韮崎市役所
甲斐市役所
笛吹市役所
北杜市役所
市川三郷町役場
鳴沢村役場
富士・東部教育事務所
山梨県立笛吹高等学校
日本年金機構大月年金事務所
笛吹警察署
山梨県庁